

# 組合だより

第 2 号 (通算 21 号) 2008 年 10 月 10 日	発行: 九州工業大学教職員組合 〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町 1-1
--	--

Web: <http://www2.ocn.ne.jp/~kitunion/>

執行委員会のメールアドレス: [kitunion@ninus.ocn.ne.jp](mailto:kitunion@ninus.ocn.ne.jp)

## 【全大教九州教職員研究集会の報告】

8月30日から31日に大分県別府市で開催された全大教九州教研集会に井本、嶋田、内藤、豊瀬、修行の5委員が参加しました。そこで交わされた議論などを各分科会ごとに報告します。

### ・教員分科会

教員分科会では、(1)免許更新制度について、(2)サバティカル制度について、(3)助教の仕事について、(4)63歳定年と再雇用についてなどの議論がなされました。

サバティカル制度については、実際に実施している大学から、制度そのものはあっても取ることが難しいという問題点があり、取りやすい環境作りが必要であることが報告されました。本学で実現する場合にも同様のことが問題になると思われます。助教の仕事については、各大学から実情についての報告があり、単組だけでなく、九州全体などで要求するような、統一された活動が必要だとの議論がなされました。63歳定年と再雇用については、参加大学中63歳で定年となるのは、福岡教育大学と九工大だけであり、十分な議論にはならず、逆に、今後単組としてどう考えていくのが浮き彫りになりました。

(嶋田)

### ・技術職員分科会

前回の長崎から全大教九州技術職員部会を開催していたかったため、他の分科会より長く時間を設けてもらいました。

内容は、(1)技術職員組織、(2)評価、(3)昇給昇格について各単組より報告がありました。改組を行って間もない佐賀大、大分大は、規則制定過程での問題点や改組後に見えてきた問題などの報告がありました。高専は、組織化の基本が労使でまとまり、この秋から順次実施する運びとなっているそうです。高専の特徴としては、組織を校長直下に設置し、各高専に5級を標準として2名置くことにしたことです。技術職員部会として開催した後半は、今後の部会のあり方や連絡網の再構築などを決めました。(井本)

### ・大学の自治と管理運営問題

このテーマについては、(1)総長選考方法について(主に九州大学)、(2)経営協議会の構成員変更について(大分大学)、(3)特別教育経費等予算申請について(熊本大学)について議論がありました。(内藤)

## 【全大教全国青年交流集会の報告】

全大教青年部による全国青年交流集会は、8月30日および31日の2日間、新潟の新潟駅前カルチャーセンター会議室で開催され、全国から40名が参加した交流集会になりました。

1日目は開会式のあと4-5人の少人数のグループに分かれ、各グループごとに計画を決めて社会見学が行われました。懇親会では自己紹介や社会見学の報告などで交流を深めました。

2日目は分科会ごとに議論が行われました。分科会はB.教員、C.技術職員、D.事務職員、E.自由討論の4つの分科会が開かれ、私が参加したC.技術職員の分科会は10名で行われました。技術職員の分科会の内容は、技術職員の組織化についての進捗状況や、組織の形についてなどでした。評価については取り入れている学校もあり、評価方式の違いや問題点などが話し合われました。技術職員の居室について、各学校の状況を知ることができました。

様々な視点からの意見交換、情報交換そして交流を深めることができました。(国末)

## 【全大教教職員研究集会の報告】

9月13日から15日に東京で開催された全大教教研集会に藤澤、岡本、井本、葉山の4委員が参加しました。そこで交わされた議論などを報告します。

### ・技術職員分科会

今回のテーマは「地域貢献」でした。地域貢献により、技術職員の地位向上に結びつけるかを議論するためです。

報告は、鳥取大および山形大からでした。鳥取大は、理科離れに危惧し、興味のない子供に対し出向いて啓蒙活動を実施しています。新聞やテレビの取材も受けており、中心となって行ってきた技術職員は、今年度「文部科学大臣賞」を受賞しました。山

形大は、特徴として地域貢献における指針を制定しているところです。実施形態は、大学などの会場に足を運んでもらうものです。

どちらも、学内のみならず学外に対しても技術職員の位置づけをより高いものにしたものと言えます。これ以外には、再雇用についての現状、昇格の状況などの報告もありました。(井本)

#### ・教職員の労働条件・環境問題

「教職員の労働条件・環境問題」分科会は、57名の参加により6単組からのレポート報告より質疑・討論が行われました。(1)再雇用 (2)入試手当 (3)技術職員の昇格昇給 (4)女性職員の昇格の遅れ (5)夜間主コース(二部) (6)非常勤職員の任期 (7)教育職員の多忙化 他、多岐にわたる内容となりました。

特に非常勤職員の任期問題は、各単組の大きな問題として扱われ、本分科会では扱いきれないくらいになり、非常勤職員分科会にまわしていただくような場面もありました。

問題等が報告される中、天文台からは超高地手当の設置は筑波大学の減圧手当を参考にして実現できたとの報告や燃料高騰を通勤費に反映するような要求を行っている、大阪大学では定年延長の検討が開始など、前進が見られた報告もありました。(井本)

#### ・評価と査定昇給分科会

評価と査定昇給分科会は9月14日の午前と午後開かれました。小さいとはいえ、電通大の教室が一杯になるほど盛況でした。東大、富山大、岡山大、新潟大、中央執行委員等からの6本のレポートと参加した大学の教員、事務職員、技術職員等の熱心な報告や意見により、評価と査定昇給についての現状が広く理解できました。

評価については本格実施されている大学、試行段階にある大学、未実施の大学と多様な状況にあります。また実施している大学でも教育職員、事務職員、技術職員間で実施状況にばらつきが見られます。更に、実際の評価についても1次評価と2次評価の関係、途中で異動した場合の評価の仕方、管理者をどのように評価するか、評価による勤労意欲の低下への懸念、評価の際の面談の位置付け、各評価項目の重み付け等、様々な問題が話し合われました。

本学でも2回目の教員評価を来年度に控え、タイムリーな分科会でした。(藤澤)

#### ・過半数をめざす組合づくりと組合活動の改善分科会

過半数をめざす組合づくりと組合活動の改善分科会は9月14日の午後3時過ぎからと15日の午前に開かれました。大教室のため空席も見られましたが、提

出された8本のレポートや力のこもった報告、議論により各大学の置かれた状況や取り組みの様子が幅広く理解できました。

教育職員や事務職員の採用説明会のときに組合の説明をやるようにしている大学、新任教員研修会の昼休みに弁当付きで組合からの説明を行い10名の加入者を得た大学、パート職員が一気に9名加入し、パートタイム職員部会を作った大学、拡大呼びかけグッズを用意したりして30年ぶりに前年度比純増を果たした大学、新採用看護部オリエンテーションで組合の説明を行いその場で54名に加入してもらった大学等の様々な工夫や奮闘振りが紹介され、アイデアと工夫の大切さを教えられた分科会でした。(藤澤)

#### ・男女共同参画分科会

26大学から33名の参加で開かれました。レポートに基づく報告が京大、岩手大、和歌山大からあり、他にも成果を上げているいくつかの大学からの報告がありました。京大では組合を中心にあらゆる面で女性比率を高めるために、10年毎に目標を立て具体策を大学に求めています。教員(研究者)の女性比率は教育系大学を中心に9大学で15%を超えていて、九工大の4.9%という数字は最下位でした。工科大という制約はあるでしょうが10%位にはなっ欲しいものです。

2008年度「女性研究者支援モデル育成」が採択された大学は13大学あり、その中には三重、富山、新潟、島根、宮崎等の地方大学も含まれていることを見ると、九工大でも講演会や学生との交流会、また課題決定に向けての準備がなされながら応募に至らなかったことは本当に残念だったと思います。(葉山)

#### 【職員懇談会の実施】

9月下旬に懇談会を地区(戸畑/飯塚)・職種(教員/技術職員)ごとに分けて実施しました。参加された組合員の方々から、多くの有用なご意見などを伺うことができました。詳細は次の組合だよりに掲載予定です。

#### 【今後の予定】

10月 団体交渉

11月1日~2日 全大教労働セミナー

11月2日 全大教単組代表者会議

### ■ □ ■ 組合員募集中 ■ □ ■

組合への加入や問い合わせは、お近くの執行委員かメールで執行委員会までご連絡ください。

[kitunion@ninus.ocn.ne.jp](mailto:kitunion@ninus.ocn.ne.jp)